

1 単元名 「私たちにできること」

2 単元の目標

◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。

(思考力、判断力、表現力等B(1)イ)

○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

(知識及び技能(1)カ)

○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

(思考力、判断力、表現力等B(1)ア)

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

(思考力、判断力、表現力等B(1)ウ)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 文章全体の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(1)カ - 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ	「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	筋道の通った文章となるように、粘り強く文章全体の構成を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書くようとしている。

4 単元について

本単元は、身の回りの問題に対しての取り組みを提案する文章を書くものであり、そのための構成を中心に学ぶ。身の回りの問題について情報を収集し、様々な情報の中から原因と結果の関係を見出し、結び付けて捉える力や、その情報を活用した文章の構成・展開を考える力の育成を目指すものである。

生活の中から、解決したい課題を見出し、情報を集める際に図書資料やインターネットを活用し、その情報を蓄積していく。「集めて、写して終わり」という活動にならないよう、「自分の主張に合っている資料か。」や「そもそも、このデータは正しいのか。」などについても、グループで共有した上で批判的思考ができるよう声掛けをしていく。

資料をもとに文章を書く際には、集めた情報をどう整理して文章に活かせばよいか構成メモを作り、事実と感想、意見の区別を行っていく。筋道の通った文章を書くために、いきなり文章を書き出すのではなく、粘り強く文章全体の構成を考え、学習の見通しを持って文章を書けるようにしたい。

グループで1つの文章を書き上げるという方法を取るため、グループ内で資料を簡単に共有する仕組みを導入したり、考えを交流する時間を十分確保したりできるようにしたい。文章をよりよくする推敲の力も高めるため、「もっと分かりやすく書けるところや説得力を高められる事例はないか」や

「一貫性のある文章になっているか」、「言葉遣いや表記は提案する文章にとってふさわしいものになっているか」といった点をグループ内・グループ間で推敲し合う活動を取り入れる。

文章を書いて終わりとするのではなく、その提案を届ける場を設定したり、クラス内・学年内で広く読み合い、コメント交流などを行えるような仕組みも取り入れて、児童の目的意識を大切にしたい。

5 児童の実態

省略

6 指導と評価の計画（10時間扱い）

時	主な学習活動	評価規準
1	○学習の見通しをもつ。 ・「具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P70-71 を読み、身の回りで自分たちが取り組みそうなテーマについて考える。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】
2	○提案文を書くための資料を集める。 ・テーマに応じて、学校図書館やインターネットで調べたり、インタビューをしたりして情報を収集する。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）
3 ～	○グループで、問題点や解決策など具体的な事例を取り上げながら、提案内容について話し合う。	
5	○提案文の構成を考える。 ・提案のきっかけや内容の骨子を確認しながら文章の組み立てを考える。 ・P68「情報と情報をつなげて伝えるとき」を参考に、情報どうしの関係に気を配る。	・「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。（B(1)イ）
6 ～	○グループで提案文の下書きをする。 ・「提案するときに使う言葉」を参考に、内容のまとまりごとに分担するなどして書く。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする
8 本 時	○下書きをグループ内・グループ外と検討して清書する。 ・P74 の作例を参考に、内容や書き表し方の工夫について、意見を出し合って推敲する。	とともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりする
9 ～	○書いた提案文を他のグループと交流する。 ・分かり易い、説得力がある書き方だと感じた部分を伝え合う。	など、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）
10	○学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。	【態】筋道の通った文章となるように、粘り強く文章全体の構成を考え、学習の見通しをもって提案する文章を書こうとしている。

7 視点について

視点1 情報活用の実践力

○必要な情報を集め、情報を整理して自分の考えを表現する情報活用能力の育成

「情報活用能力」 分類A-2-①【調査や資料等による基本的な情報の収集の方法】と

B-1-③【相手を意識し、分かりやすく表現する】に関連

情報を集める際に、「どこを見れば良いか」「どの情報が必要なのか」について、悩む児童は多い。そうになってしまう理由として、検索スキルがまだ十分でないという点も挙げられるが、テーマ設定が固まっていなかったり、どんな資料を見つければよいかの見通しが立っていなかったりすることが大きいと考えられる。テーマに関しては、実態調査からも、「書く活動で何から書いたら良いかわからない。」という意見が多いことから、児童が迷いなく取り組めるよう、設定やグループでの見通しの確認を確実にしていきたい。

本単元は、個人での提案文作成ではなく、グループでの提案文作成となる。調べている際に、「今、誰が何を調べているか」や「どんな情報が見つかっているか」の共有が十分でないと、その後の提案文作成にスムーズに進むことができない。そこで、グループ内で「調べていること・見つかった情報」を共有するために、ギガタブを活用する。共同編集機能を使って情報が共有されるようにし、状況の「見える化」を図っていく。

文章構成段階に於いては、本単元の1つ前、「情報と情報をつなげて伝える時」で学習した「具体化・定義づけ、一般化」という方法も使えることを確認した上で行うようにしたい。構成メモを作る際にも、ギガタブが活用できる。スライド等で、カードの色によって事実と感想、意見を区別し、筋道の通った文章となるよう構成を練っていく。

情報発信に際して、文章作成時のローマ字入力についても成長の機会を確保する必要がある。これまではパソコンを扱う際、キーボードを見ながら、両手の人指し指ばかり使って入力していた児童が多かった。国語の学習だけでなく、日頃の振り返り日記、定期的な入力文字数調査などを生かして、ホームポジションの習得やタイピング文字数の向上を図っていく。

○共有機能・コメント機能を活用した書く力の効果的な育成

書く活動においては、個人作業や「児童と教師の1対1での対話」が多くなりがちである。それにより、他の教科・単元で自然と行われるような児童同士の交流・学び合いが取り入れにくくなってしまうことが多い。しかし、実態調査からも分かる通り、「友達と作品を交流する」「友達から作品についてコメントをもらう」ということが児童の意欲に大きく繋がっていることも考えると、作品共有の持つ意味は大きい。日頃から意見共有を大切にし、本単元でも効果的な共有を行いたい。

作成途中の作文の共有・推敲段階でのコメント共有・完成後のコメント共有など、児童が相互に作文を読み合い、互いの文をよりよくする活動に力を入れたい。Googleアプリのコメント機能はとても優れており、これまでの児童同士の推敲ではやりにくかった「特定の部分に対しての提案・疑問の投げかけ」がしやすくなっている。コメント機能についても、他教科やドキュメント以外のアプリでも積極的に活用し、目的に合ったコメントの活用ができるようにしていきたい。

8 本時の目標（8/10）

①教科の目標

・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）（思・判・表）

②ICT活用を通じて付けさせたい力

・設定したテーマに対して、事実と感想、意見の区別等、相手に伝わりやすい表現や資料の引用ができていないか、構成や文の書き方を見直すことができる。

（情報活用の実践力）

9 展開

学習内容	○教師の支援 ◇評価 ◆付けさせたい力
1. 前時までの学習を振り返り、作文を読んで本時のめあてを確認する。 メンバーのそれぞれは書けているけど、つなげて読んでみたらよくわからないところがあった。	○よりよくできそうな部分はないか考えながら読めるように促す。
グループ内やペアグループで下書きを読み合い、文章全体の構成や内容、書き方を見直そう。	
2. 検討すべき観点を出し合う - 問題がはっきり分かるように書けているといいと思う。 - 提案の理由がわかりやすいかどうかを見たい。 - 見出しや箇条書きなどを使って分かりやすく書けているか見直したい。 - 実際にどんなことをするのか、分かるように書いてあるか見たい。 - 分担して書いているので、文の順番が、伝わりやすくなっているか見直したい。 3. グループやペアグループで下書きを読み合い、文章全体の構成や内容、書き方についてコメント機能を使ったりしながら確認する。 4. 提案されたポイントについて、個人やグループで修正を行う。 - この文は、順序を入れ替えた方が伝わりやすいな。 - 資料の説明が足らなかったから、文をつけ足してみたよ。 - 文が長くなっていたから、区切ってみたよ。わかりやすくなったかな。 5. 振り返りを記入する。	○教材文や、教師の見本文について振り返り、どんな点について気をつけられると良いか考えられるよう支援する。 ○具体的な文章例と、それに対するアドバイスが書かれたものを示し、活動のイメージが持てるように支援する。 ○直すべき部分が見つからない児童・グループには、よりよくできそうな点について担任が事前に作文を読んで気になった点について示し、検討のきっかけを与えられるようにする。 ◇「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) (思・判・表) ※視点「共有機能・コメント機能を活用した書く力の効果的な育成」表出場面 ○2. の活動で示したアドバイスに対する修正例を提示し、児童が自分たちの作文のよりよい形をイメージできるよう支援する。 ◆設定したテーマに対して、事実と感想、意見の区別等、相手に伝わりやすい表現や資料の引用ができているか、構成や文の書き方を見直すことができる。(情報活用の実践力) ※視点「情報を整理して自分の考えを表現する情報活用能力の育成」表出場面